

Taiwan Taiwan Taiwan Taiwan

Taiwan Taiwan



Taiwan

Taiwan

Taiwan



Taiwan Taiwan

Taiwan Taiwan

Taiwan Taiwan Taiwan Taiwan

# 台湾视察 报告書

## 浜松市議会 創造浜松

Taiwan Taiwan Taiwan Taiwan

Taiwan Taiwan Taiwan Taiwan

Taiwan Taiwan Taiwan Taiwan

Taiwan

Taiwan

Taiwan

Taiwan

Taiwan



Taiwan Taiwan Taiwan

# 目次

視察メンバー .....P2  
視察日程表 .....P3  
団長挨拶 .....P4  
訪問国概況 .....P6



## 視察報告

### 出店機運と水産及び商業の動向と課題について

報告者：湖東 秀隆 .....P7

### 日台工業連携の動向と課題について

報告者：鈴木浩太郎 .....P9

### 最近の日台関係と台湾南部（高雄）事情について

報告者：高林 龍治 .....P11

### 浜松&台北との国際交流の現状と課題について①

報告者：関イチロー .....P14

### 浜松&台北との国際交流の現状と課題について②

報告者：田中 照彦 .....P18

視察を終えて .....

## 視察メンバー

	氏名 (会派役職)	選挙区	当選回数
	内田幸博 (会長)	南区	5回
	田中照彦 (幹事長)	中区	2回
	高林龍治	東区	4回
	鈴木浩太郎	北区	3回
	関イチロー	中区	3回
	湖東秀隆	浜北区	3回
	新村和弘	西区	3回

## 視察日程表

日程	月日 (曜日)	発着地	時間	スケジュール 泊】	【宿
1	9月3日 (水)	浜松西 IC 三ヶ日 中部国際空港 着 中部国際空港 発 台北空港着	05:55 06:05 07:35 09:45 11:50 13:30	E-wingにてセントレアへ  日本航空 JL821 にて台北へ 専用車にて台北市内へ <b>《視察》「うなぎの浜松や」</b> 専用車にて移動	【台北泊】
2	9月4日 (木)	新竹ホテル発  新竹駅 高雄駅	09:00 13:00 15:10 16:30	専用車にて新竹市内へ <b>《視察》「朝日電装」</b> 新幹線にて高雄市へ 専用車にて高雄市内へ	【高雄泊】
3	9月5日 (金)	高雄ホテル発  嘉義駅 台北駅	09:00 09:30 13:30 15:09 17:30 18:00	専用車にて台北市内へ <b>《視察》「日台交流協会」</b> 専用車にて嘉義駅へ 新幹線にて台北駅へ 専用車にて交流会会場へ <b>《視察》「浜松市主催交流会」</b>	【台北泊】
4	9月6日 (土)	台北ホテル発  台北空港発 中部国際空港 着 中部国際空港 発 三ヶ日 浜松西 IC	09:00 09:30  15:45 19:35 20:45 22:10 22:20	専用車にて台北市内へ <b>《視察》「建国花市でのプロモーション活動」</b> 専用車にて空港へ 日本航空 JL822 にてセントレアへ  E-wingにて浜松へ	

## 団長挨拶

近年、台湾台北市との交流が盛んになり、本市から市長始め各議員が表敬訪問をしており、今年は台北市の建国花市場において、本市の農産物と本市の誘客宣伝のセレモニーが行われるためと、浜松の二次下請け産業の現地法人の企業内容・財団法人交流協会について内情を把握するため視察を行いました。

また、外国との交流を定着もしくは好感をもって貰うには、継続することが大切であると私は過去の経験から学んでおり、市長が台北市との交流のきっかけを作り、その翌年議員団が訪問し、今年浜名湖花博 10 周年記念に台湾から 50 人の来客がありと交流が盛んになり、我々議員も台湾をよく理解する必要があるとの事から実行した次第です。

我々は、日常マスコミの報道や書物等で色々な情報を受けておりますが、本当のところはと考えればよく知らない状況にあります。

今、日本は中国・台湾・ベトナム・タイ・インドネシア・ヤンマー等の各諸国に経済活動を求めて活躍しており、その一方で国内の産業の空洞化が進み悩み問題ですが、現地に行けば都市の経済活動に日本製品が怒濤のごとく氾濫し、今日に至っては台湾で生産し他国へ日本製品を輸出している状況で、日本とはきっても切れない関係になっており、今後は互いに利を取り合い成長する関係であると痛感いたします。





また、台湾人の人々が中国に対して大陸と呼び、けして中国もしくは中華人民共和国と呼ばない理由は、過去の歴史があり過去の歴史を学ぶと共に理解していないと誤解を生じます。



そして、日本人に対しては過去の歴史認識もありますが、全般的には親日的であります。特に台中から南方面は特に親日的であります、その理由は日本統治

時代に日本軍がある意味では紳士に振る舞いしたことと、まちづくりの基本を伝授したことやまちづくりにおいて今まで役に立っている施設の構築などがあり、一定の評価をしているのだと感じた次第であります。

そして、現代は中国との関係を図るとき、大陸と呼ぶ台湾人の気持ちと、交流協会しか設立できないことを考えれば、国として生きて行きたい気持ちと中国の一部であるとの考え方に揺り動かされて全ての活動の原点がそこにあると思います。



しかし、冒頭で述べたように経済的には、日本とはきっても切れない関係にあると理解し、歴史認識を踏まえお付き合いをして行く必要があると思います。

団長 内田 幸博 拝

## 訪問国概況

JETRO ホームページより  
(2014年09月24日)

### 1、一般的事項

国・地域名：台湾（地域）Taiwan  
面積：36,192 平方キロ（九州とほぼ同規模）  
人口：2,337 万人（2013年統計）  
言語：中国語（公用語）

### 2、経済的指標

実質 GDP 成長率：2.11%  
一人当たり GDP：20,930 ドル  
失業率：4.18%  
輸出額：305,441 百万ドル  
輸入額：270,473 百万ドル

### 3、日本との関係

貿易額（通関ベース）

単位：百万ドル

	日本の輸入 (A)	日本の輸出(B)	収支(A-B)
2009年	36,220	14,502	21,718
2010年	51,917	18,006	33,911
2011年	52,200	18,228	33,972
2012年	47,574	18,989	28,585
2013年	43,162	19,222	23,940

主要輸出品目

電子・電気機器、化学品、基本金属及びその製品

主要輸入品目

電子・電気機器、基本金属及びその製品、プラスチック・ゴム及びその製品

日系経済団体

台北市日本工商会会員企業：446 社

台湾日本人会：303 社

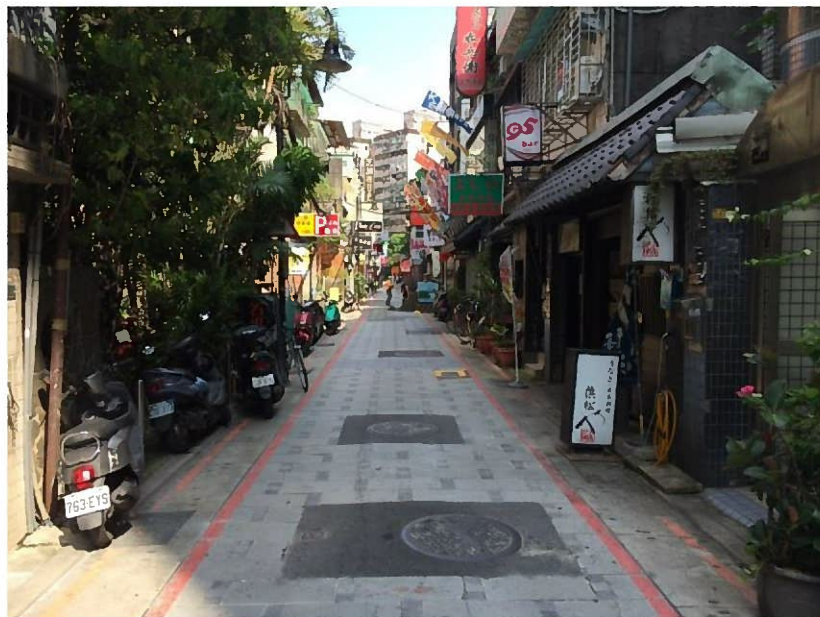
在日邦人数：15,870 人

## 出店機運と水産及び商業の動向と課題について 「うなぎの浜松や」

報告者：湖東 秀隆

雄踏町より移住し、20年前から台北市内で鰻料理店を営んでいる「日本料理 浜松や」の■■■■氏に、台湾での「鰻」、また食文化について話を伺った。

移住するきっかけは、雄踏町で父親が営んでいた養鰻業自体の先行き等の事情らしい。以前は「鰻」の養殖業は、シラス鰻から黒子鰻（体調 15cm



程に成長した稚魚）が主体で、成魚として日本へ輸出することであった。

また、料理方法も当時吉田町の方が日本式の開き方（腹開き）を伝えたようであり、それ以前は、鰻の輪切りをスープで煮込む料理程度であった。

台湾の養鰻業は台湾南部の高雄市周辺が中心となり、主に日本への輸出ではあるが、売買も規制があるため日本国内でも取引が厳しくなっているとの話を台湾国内でも耳にしている。近年、価格も一時期は 200～240 万円/kg に高騰した時期もあり、日本での需要が主体となっているため、日本の養鰻業者としては大変負担が嵩んでいるようだ。



また料理方法については、台湾人の感覚として蒲焼き自体の食文化がなかったことから、台湾での「日本式鰻料理」は、開店当時批判があったようだ。しかし、日本式を貫いたことにより、今では台湾人も食事に来店するようになった。



今後の見通しについては、日本からの渡航者の状況にも関係するが、特に新たな日本企業の台湾進出や既存進出企業の台湾国内で事業展開を維持することにより、商談での利用が期待される。

今や大手外食チェーン店の海外進出に違和感はないが、食文化の違いが高いハードルでもありながら、台湾への移住、店舗開店、そして、現在も経営している努力に感心した。店主の代で一区切り、その後の継続は考えてないようだが、今後も親しまれる日本料理店として頑張ってもらいたい。

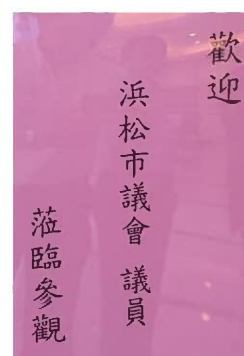


## 日台工業連携の動向と課題について 「朝陽電装 有限会社」

報告者：鈴木浩太郎

説明要員 総経理・松井宏澄氏  
業務部副理・XXXXXXXXXX氏  
技術経理・XXXXXXXXXX氏 XXXXXXXXXX氏

1987年12月に起業した。従業員130名。資本金5000万元のスイッチ、ロック、タンクキャップ等の設計、製造、販売の会社。

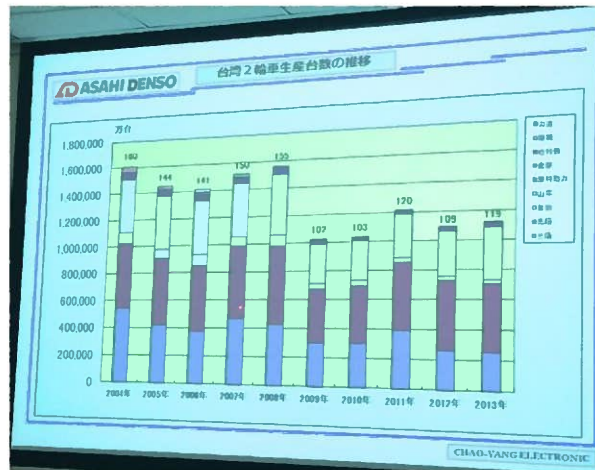


30年前に台湾で起業した。特に感心したことISO14001を早期に取得し台湾に進出した日本企業の実績に対する取り組みに台湾政府はかなりの信頼と共鳴を受けていた。特に台湾は中国本土に比べて環境意識はかなり高く、中国があまりにも公害をまき散らしていることへの批判意識と環境状態の違いの差が浮き彫りとなっていました。同時に中国との不仲説は相当でありその兆候は台湾の南に行くほど顕著であった。



数少ない日本人の現地社員に聞くとまだ若い社員ではあるが、「早く日本に帰りたいとは思わないか？」との質問に「製造業部門は日本国内生産感覚

ではなくグローバルな感覚と取り組みが必要であることがよく理解でき、今後の企業の在り方を見る目が養われたので海外への派遣は非常に勉強になっているので後輩にもしっかりと伝えたい」との発言があり、日本本土だけの生産拠点ではない時代が現地の社員の意識にしっかりと育っている。また日本にも海外から進出する企業も誘致する時代がやってくることも必要であることも実感し、このことは現地に赴いて実際の姿、考え方に触れてこそ理解できるもので



あることが判明した。また工場内を視察し、女性の社員が圧倒的に多く、理由を聞くと女性の手先の器用さが必要な工程が多く機械化が非常に難しい職場であるので安定的な雇用ができ、管理職も含め女性の社会進出に最も貢献している企業である。





## 最近の日台関係と台湾南部（高雄）事情について 「日台交流協会 高雄事務所」

報告者：高林 龍治

私たちは、台湾との貿易、経済、技術、文化など民間交流関係を維持、発展していくための機関である公益財団法人交流協会の高雄事務所を訪問した。呼称、日台交流協会といわれる。「交流協会」という言葉にはあまり馴染みはないが、公式に国交のない台湾との実務関係を処理するため、1972年12月に外務省・経済産業省によって認可された財団法人であり、その後2012年に公益財団法人に移行した、日本の対台湾窓口機関である。名称こそ異なるが、大使館と同様の役割を担っている。台湾には台北市と高雄市の2箇所にも事務所が置かれている。当日は所長が不在であったことから副所長の■■■■氏と専員の■■■■氏からお話をお聞きすることができた。



訪問した理由は、昨年、観光交流都市協定を結んだ台北市と共に高雄市における本市へのインバウンド事業の可能性や民間企業進出事情、また、高雄港のコンテナ取扱量が2013年は世界13位であり商工農林の発展的な戦略上の重要な貿易拠点であることに注目した。因に、コンテナ取扱量の世界1位は上海、東京は28位である。

さて、台湾への年々増える日本人観光客と在住者だが、2010年の日本人来台観光者数は約108万人で、その後は年々増加傾向にあり、2013年は142万1550人と過去最高を記録した。そして、2014年7月時点では早くも140万人を突破している。

日本人在住者も約1万7000人と世界的にみても多いほうであることから、町中では親日派の台湾人や駐在者、日本人観光客のニーズに合わせた、日本の食べ物や商品が並び、日本語で会話する声があちこちで聞こえる状況にある。

同じように日本への台湾人観光客数も増加し、2013年は221万人強と前年比50.8%増であることから、更に本市へのインバウンド事業も台湾南部へ展開していくべきであることを確信した。

高雄事務所管内の日系進出企業は、100%投資企業が128社で合弁企業は135社、合計263社である。2010年12月より、高雄市行政は寄与した日系企業を讃えるため「高雄市優良日系企業表彰」を創設した。高雄市に存在する日系企業社数は、他の外国企業に比べ顕著であり、長年にわたり高雄市の経済発展に多大な貢献をしており、高雄市にとって最も重要な外資と位置づけているからである。日本企業の存在感をこの台湾で知ることができたことはたいへん大きな収穫であった。市内企業も事業展開のためのビジネスマッチングに力を入れる必要があることを感じとることができた。



交流協會にご用の方は9階へお越しく下さい。  
査証、旅券、各種証明は10階へお越しく下さい。

<b>VISA SECTION</b>	<b>旅券 各種証明</b>
09:00~12:00	09:00~12:00
13:30~16:00	13:30~17:00
<b>WEEKEND</b>	月曜日~金曜日
<b>CLOSED</b>	(休所日を除く)



日台関係は経済面においても最良の状態ではないかと分析される。経済、ビジネス関係の取り決めが次々にでき、いろいろな枠組み作りが順調に進んでいるという。そして、枠組み作りができたことで、日本と台湾の企業が互いに補い合っ  
て企業連携を組んで海外に出て行くという流れもできてきている。特に潜在力のある成長する ASEAN などの市場へ日台企業が出て行くというビジネスモデルが進展してきていることは間違いないといわれた。それに台湾には、まだ日本語世代の人たちが経済界の第一線でかなり活躍していて、日本経済界との付き合いやお互いの信頼関係もあり、そういう人たちがまた次の世代へ繋いでいるという台湾事情も非常に良い形になっているということである。

具体例として、台湾の日本企業が東南アジアの台湾企業から部品を入れて、それを中東に売るとい  
うような新しい成長パターンが模索され、進みつつあるというのだ。日本の電機製



品の部品を入れて台湾で車を作り、それを中東に売っているケースもある。サービス業では、コンビニが日台合弁で中国に展開しているケースもあるという。そういう意味で、今の日台経済関係は、いろいろな経済的活動のサポートをする枠組みとその裏付けとなる日本語世代の人的繋がりという活かせる部分とがかみあった状態にあることから今が最良ではないかと思われる所以である。

余談だが、お二人ともお話の中で台北市に勝っているというような意識した発言が多かったことが印象に残る。

## 浜松&台北との国際交流の現状と課題について① 「浜松主催交流レセプション」

報告者：関 イチロー

9月5日(金)の18時から、福容大飯店において開催。

台北市政府 副秘書長：林萬發 氏以下7名、建国花市 常務監事：[REDACTED] 氏以下5名、浜松市長以下7名の市役所職員、JA 遠州中央 営農振興部茶業課長：[REDACTED] 氏以下2名、(株)アグリサポートみっかび 営業本部長：[REDACTED] 氏、JA みっかび 営農部柑橘課販売主任：[REDACTED] 氏、静岡県台湾事務所所長：宮崎 悌三 氏、創造浜松所属議員7名、現地通訳3名が出席して行われた。



- ・鈴木 康友 浜松市長
- ・林萬發 台北市政府副秘書長
- ・[REDACTED] 建国花市常務監事
- ・[REDACTED] 氏
- ・[REDACTED] 氏

開会の後、浜松市長、台湾市、建国花市の順で挨拶が行われた。3者は、2010年に台北国際花博に浜松市が出展をし、その際に庭の管理を国際花市にお願いをした。また2013年には浜松市と台北市で観光交流都市協定を締結し、本年4月の浜名湖花博へは約40名の



建国花市の皆さまに視察をしていただき、市内花卉事業者との交流も実施した関係である。

今回持ち込んだ品は、メロンと日本酒、お茶、ミカンジュース、みか

んゼリーであり、もっと多くの産品を紹介したかったのだが、台北市(同席の産業発展局農業発展科 課長:劉永修氏、同科:陳南柏氏)、浜松市職員の話を経ると



- ① 税関の問題: 日台交流協会高雄事務所でも質問をしたが、ミカンなどについては農薬の種類などの取り扱いについて日台では異なる基準があること。生ものの取り扱いなどに関するハードルがあること。
- ② 台湾での取扱業者: 業者の取引先を優先し、台湾内でのルートを決めていることにより、業者の選定が限られること。例えば、佐賀のミカンは台湾内での大手業者を掴んでおり、スムーズに取引が進んでいるとの事。
- ③ 行政間のコミュニケーション: 市の職員が、今年6月に経済産業省を通じて、農産物とシーフードの業者を紹介したが、知っているかと聞いても、レセプションの場であったためか、この話の担当が異なるのか、話は一向に通じなかった。



観光、農産物、特産物のセールスに関しては、まだまだ不勉強であるし、その国の商慣行、風土、気質などなど学ばなければならないことは多く、更に信頼できるパートナーとの出会い、絆を結び、深めて行く必要がある。その為には、担当職員

の確保から、その道筋に沿った採用を考えて行く必要がある。ただ、行政としての範はどこにあるのかを慎重に見極める必要がある。

## 建国花市「浜松デー」オープングレセプション参加者

### 【浜松市】

	氏名（漢字）	所属	役職
1	鈴木 康友	浜松市	市長
2	今中 秀裕	浜松市産業部・企画調整部	参与
3	齋藤 和志	浜松市産業部	次長兼農林水産政策課長
4	阿島 利幸	浜松市産業部農林水産政策課	技監
5	中村 卓也	浜松市産業部観光交流課	副主幹
6	河野 和世	浜松市産業部農林水産政策課	副主幹
7	鈴木 一視	浜松市産業部農林水産政策課	主任

### 【浜松市議会】

	氏名（漢字）	所属	役職
1	内田 幸博	浜松市議会	議員
2	高林 龍治	浜松市議会	議員
3	鈴木 浩太郎	浜松市議会	議員
4	関 イチロー	浜松市議会	議員
5	湖東 秀隆	浜松市議会	議員
6	新村 和弘	浜松市議会	議員
7	田中 照彦	浜松市議会	議員

### 【民間事業者】

	氏名（漢字）	所属	役職
1	■■■■■	JA 遠州中央 営農振興部茶業課	課長
2	■■■■■	JA 遠州中央 営農振興部営農振興課	課長代理
3	■■■■■	(株) アグリサポートみっかび	営業本部長
4	■■■■■	JA みっかび営業部柑橘課	販売主任
5	宮崎 悌三	静岡県台湾事務所	所長



## 建国花市「浜松デー」オープングレセプション参加者

【台北市政府】

	氏名（漢字）	所属	役職
1	林 萬發	台北市政府産業發展局	副秘長
2	林 裕益	台北市政府産業發展局	副局長
3	劉 永修	台北市政府産業發展局	科長
4	王 珠容	台北市政府産業發展局	股長
5	楊 吉仁	台北市政府産業發展局	
6	陳 南伯	台北市政府産業發展局	

【建国花市】

	氏名（漢字）	所属	役職
1	■■■■■	財団法人中華花卉園芸文教基金会	理事長
2	■■■■■	台北市建国假日花市自治會	理事
3	■■■■■	台北市建国假日花市自治會	常務理事
4	■■■■■	財団法人中華花卉園芸文教基金会	執行秘書
5	■■■■■	台北市建国假日花市自治會	広報担当



会場：福容大飯店  
B1F 牡丹庁 B



## 浜松&台北との国際交流の現状と課題について② 「建国花市：浜松の日」

報告者：田中 照彦

毎週末、台北市内で開催されている「建国花市」において、「浜松デー」と称して会場内に特設ブースを設け、浜松の観光や物産のプロモーション活動を行った。会場は高速道路の高架下で普段は駐車場だが、週末だけは花市の会場として使用されている。全長 2km ほどの細長い会場内両側に花卉類の店はもちろんのこと、民芸品や雑貨等の店も雑然と並んでいて市民が思い思いにショッピングを楽しんでおり、大変賑わっている。

そのような中、オープニング式典が行われ、鈴木浜松市長、台北市政府産業経理局林副局長の挨拶に続き、我が会派の内田会長も参加したテープカット



によって幕が開かれた。式典開催時は、時間が早かったこともあり、人出はあまり多くはなかったが、徐々に増えていき、浜松市が台北市民に配布するために用意した 50 個のプレゼント用の花も数分でなくなってしまうほどであった。市



職員や JA 職員の懸命なプロモーション活動に対し、台北市民も日本茶・日本酒・みかんジュース・みかんゼリー等の試食や試飲を楽

しみながら浜松への関心を深めていた。

現在台湾では、日本の自治体間との交流の中から多くの日本製の果物等が輸入されており、少々高い価格でも富裕層を中心に需要があるという。台湾人は試食主義で試して美味しいもの



には大きな興味を示すことから、このようなプロモーションは大変重要な取り組みであるといえる。



今回、鈴木市長が台北市の市長と産業分野での連携強化の方針を確認したが、他市では既に積極的なトップセールスによってみかんやリンゴなどを台湾市場に定着させていることから、遅きに失した感もある。浜松にはお茶、みかん、メロン等々日本を代表する農産物もたくさんあり、また台湾市長も連携強化には大変積極的であることから、「建国花市」でのプロモーションを機に本格的な活動に迅速に取り組んでいくべきと考える。

## 研修を終えて

今回、創造浜松にて昨今敬遠してきた海外視察を企画したのは、浜松市と台北市（台湾）が2013年7月31日に「観光交流都市」を結び、「台北国際花市」に際し現地団体と深く結びつく事で花卉産業を中心とした交流環境が整いつつある事により、交流において現地を頻繁に訪問し知己を得ることが最重要であるとの認識から、浜松市主催となる「建国花市浜松デー」と「同オープニングレセプション」への出席を主要予定とし、浜松ゆかりの現地法人企業、並びに財団法人台湾交流協会高雄事務所での視察を企画した次第です。

企画を組むに際し注意した点については、今回参加した議員の大半は台湾への渡航経験が少なく、台湾人の日本人に対する認識把握が薄い状況であり、レセプションにて現地の方々と交流を深める前に、台湾交流の基礎知識を深める工程を準備する事がありました。

さて、四日間の視察を通して参加各位は、台湾の北（台北）と南（高雄）における社会状況、及び市民の人となりの変化をつぶさに体感し、台湾人との交流における要点をそれなりに掴んで頂きました。議会としての台北訪問は「観光交流都市調印」の際と2度目でもあり、今後の交流を徐々に深めていく環境作りに大いに貢献できたものと思います。

付け加えるなら、浜松市（自治体）が海外（今回は台湾）との交流を企画する際の前提条件は、もう少し整えておく必要を感じるとともに、事前交渉が曖昧である事は否めないものとも推察します。交流目的が後付けであれば衰退し、目的が明確であれば発展するのはものの道理でもあります。

浜松市と交流関係にある都市が、お互いの交流により発展する事を心より祈念し視察報告を締めます。

新村 和弘 拝